



宮城次夫さん/ 自分史発行

宮城次夫さんが「自分史-三つの国に住んで」を自費で刊行した。三百十ページ、ハード・カバー、表紙装丁に人間国宝・平良敏子(大宜味村出身)さんの「芭蕉布」がしつらえてある。「三つの国」とは、沖縄-日本、アルゼンチン、そして北米をあらわす。宮城さんの「自分史」は販売を目的とせず、限られた予算で500部出版し、友人や知人達に配った。「自分史は自叙伝と違ってそんなに大げさでなくてもいい、文がへたでもかまわない、自分の想いを書き残しただけ」と、本が出来上がるまでを自宅にて説明した。

「今日の沖縄の繁栄の地下には20万人以上の祖霊が眠っておられる。我々は常に祖霊の安らかさを祈り、併せて戦争を否定し、この地上から戦争を起こすあらゆる手段を追放するために、党派、宗派をこえて大同団結して、平和のための運動を推進せねばならない」と宮城さんはこの本の「はじめ」で書いている。自分史出版の大目的は「戦争否定」にあると強調した。

内容は第一章から第九章まで、幼少時代、沖縄県立第三中学校、戦争、戦後、開洋高等学校、アルゼンチン、米国、ウチナンチュ大会、人種の垣塙ロス、となっており、持ち前の明るさで突っ走った75年間の過去が想起されている。南カリフォルニアで最大規模の沖縄県人会の前身沖縄クラブの創立、県人会長四期就任、北米沖縄人史の出版、そして今回の自分史の刊行などが淡々とつづられている。

宮城さんは大宜味村出身で76才、久子夫人と西ロサンゼルス居住、二人の息子と一人娘を成長させた。家庭菜園を老後の趣味とし、ゴーヤー、ナベラーなど沖縄の健康食材を季節におおじて植えつけて、友人たちにも配る。お酒は泡盛以外あまり口にしない。玉城流冠千会北米支部後援会長でもあり、琉球芸能をこよなく愛する。三月一日にロサンゼルスの有志達が「出版記念祝賀パーティー」を挙行了した。

当銘貞夫

写真は宮城次夫さん近影、自宅にて。